

地域支援センターしせい

第4号

【平成28年10月18日】



相馬看護専門学校 臨地実習を終えて

今年度も5月と9月に相馬看護専門学校の学生39名が本校に臨地実習にやって来ました。3年生は、障がいについても授業の中で学んでいるとのこと、事前レポートの中でも「児童生徒と積極的にかかわりたい」ということが書かれていました。2年生は、これから授業で障がいについて学んでいくということでしたので、事前レポートにも「どのようにコミュニケーションをとればいいのか不安」と正直な思いがつつられていました。

朝、挨拶をする時には緊張からか表情にも硬さが見られましたが、実習を終えて職員室で挨拶をする表情には笑顔も見られ、充実した様子がかえりました。

今回の「しせいだより」では、看護実習での学生の方々の感想を紹介したいと思います。

看護師になって患者さんと接する時、相手が何を望んでいるのか、どのようにすれば心地よいのかなど相手のことを考えて接することが大切だということをこの実習を通して学びました。

実習を始める前は、どのようにかわればよいのか、コミュニケーションをとればよいのか不安な気持ちでいっぱいでしたが、実習を通して普通に接すればよいのだということがわかりました。

まだまだ障がいの特性について十分ではありませんが、これから少しずつ学んでいき、看護師になった時に生かせるようにしたいです。

小学部のお子さんが言葉じゃなくても、自分の思いを伝えてくれて嬉しかったです。一緒に遊ぶことができてよかったです。

先生方が一人一人の子供に合わせて指導をしている様子を見ました。看護師になった時には「障がいがある人」ではなく、一人の患者さんとして接することが大切だということを学びました。看護師になった時には、一人の患者さんとして丁寧に接していきたいです。

実習で本校の児童生徒と触れ合うことを通して、障がいについて知るきっかけとしてほしいと思っています。看護師として相馬の地で活躍される際には、本校の実習で体験したことを生かしながら障がい児者へのサポートをお願いしたいと思っています。

